

近鉄西大寺駅周辺、イベント盛んもポイ捨て増加 市に対策求め、美化促進重点地域へ

市議会3月定例会の代表質問の中で私は、県内屈指の乗降者数、利用者数がある近鉄大和西大寺駅の周辺まちづくりについて、進捗状況や今後の整備計画を問いました。また芝生広場や駅前広場などが整備されたことを受けて、ごみや煙草のポイ捨てが増加している地域の現況を市に訴え、これらの防止や美観の維持のための対策を要請しました。市は西大寺駅周辺をはじめ人通りが多い主要駅を「美化促進重点地域」に指定していきたい考えを明らかにしました。

駅前周辺は、市道西大寺一条線の歩行者利便増進道路「ほっこみち」として利活用を促進しています。

芝生広場^{写真}では、一昨年度から社会実験のお試し利用「トライアル・サウンディング」が行われ、イベントや出店が盛んに見られるようになりました。この社会実験で得られた課題や、その後の利活用、運営の制度設計などについて市の考え方を聞きました。

市は「芝生広場における飲食の



「条件見直し最善策を」 2回の応募なし状況に 民間活力目指す市有地活用公募

大和西大寺駅北側にある市有地^{写真}について市は昨年度、民間事業者がこれを借り受けて産官学の連携拠点施設を建設する事業者を公募するプロポーザルを8月と11月に行いましたが、2回とも応募者がなく、活用方法が決まつ

た。市は「事業者が採算性を検討する際、定期借地より土地購入の方がメリットが大きい、また建築資

提供や各種パフォーマンスなど、令和6年度末までに56件の利用があつた。課題としては天候に左右され、目標とする収益が得られないといった意見や、火の利用に対する事故リスク、近隣事業者から騒音の苦情などもあつた。今後の運営に向け、見えてきたニーズや課題を元に、エリアマネジメント組織の組成に向け、近隣事業者や地域と協議を行っている」と説明しました。



また私は、これら駅周辺の整備が進められ、さらに利用者が増加したこと、ごみや煙草の吸殻などが目立つようになっている現況を市に訴え、マナー啓発をはじめ市として対策が必要と指摘。近隣事業者や自治会の方々が清掃しているなど、地域へ過度

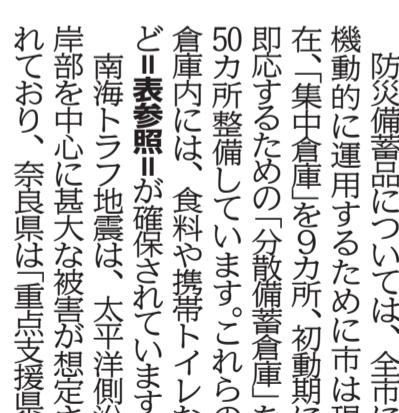
市民の命を守る取り組み 映像通報システムが稼働

南海トラフ地震をはじめとする大規模災害時の市の備蓄や、自助、共助の取り組みについて市の考え方を聞きました。また火事や事故、急病など119番通報を受けた際、現在は通報者からの音声で伝えられるシステムになっていますが、状況がより伝わる「映像通報システム」の導入を提案し、市の見解をただしました。

119番通報の「映像通報システム」は現在、全国720消防本部のうち、174本部で稼働しており、市は「市民の命を守る取り組みの一つとして、今年度4月1日から実証実験を実施する」としました。私は広報をはじめこの取り組みの周知徹底を市に求めました。

防災備蓄品については、全市に機動的に運用するため市は現在、「集中倉庫」を9カ所、初期に50カ所整備しています。これらの倉庫内には、食料や携帯トイレなど^{表参照}が確保されています。南海トラフ地震は、太平洋側沿岸部を中心に甚大な被害が想定されており、奈良県は「重点支援県」

となつていません。市は「最近は自治会加入率も低下しており、大変危惧している。このため地域の自主防災防犯組織に対する活動交付金を加算し、地域の活動を高めていきたい」と述べました。



奈良市の防災備蓄品

◆食料 15万4000食 (避難者の3食分)	
◆携帯トイレ 約51万1000セット (1日5回計算で2日分)	
◆飲料水 約7万8700立方メートル (全市民の14日分)	

な負担にならない取り組みを求めていました。市は「大和西大寺駅広場周辺をはじめ、人通りが多くなる主要駅は、特にポイ捨てを防止する必要がある地域として『美化促進重点

な負担にならない取り組みを求めていました。市は「最近は自治会加入率も低下しており、大変危惧している。このため地域の自主防災防犯組織に対する活動交付金を加算し、地域の活動を高めていきたい」と述べました。

塚本勝のその他議会活動

- ▶学校給食無償化「持続可能な施策へ」要望
- ▶増加する不登校児や生徒、特別支援児童生徒数5年で1.5倍。対策と支援求める
- ▶市立中の部活動所員数減少
- ▶市公式アプリの充実を
- ▶ふるさと納税の強化を提言
- ▶耕作放棄地の解消へ
- ▶佐保小学校新校舎の早期建て替えの推進
- ▶防災における関係機関との連携